

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372701021		
法人名	社会福祉法人 順和会		
事業所名	グループホーム 陽なたぼっこ		
所在地	熊本県阿蘇郡南阿蘇村河陽4463		
自己評価作成日	令和2年11月7日	評価結果市町村受理日	令和3年2月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai gokensaku.jp/43/index.php">http://www.kai gokensaku.jp/43/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本3丁目13-12-205
訪問調査日	令和2年11月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

陽なたぼっこは各居室からの眺めも良く、四季折々の風景を楽しむ事ができ、近頃では芝生に鹿の親子やうり坊(猪の子)が遊びに来て、入居者の皆様を笑顔にしてくれます。職員の年齢層も幅広く、お互い意見を出し合いながら、5つの理念の一つでもある「家庭的でぬくもりのある暮らし」を提供できる様、日々の様々な事に取り組んでいます。介護支援専門委員、介護福祉士や看護師等有資格者を配置し専門性を活かし、より良いケアが出来る環境を整えています。本年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の為、関係医療機関、法人の各事業所と連携し、病院、法人の感染予防の勉強会に参加し、又当事業所でも勉強会を実施、知識を深め感染予防に努めています。毎日の消毒、次亜塩素酸水を使用しての掃除等、日常のケアに努めています。外部との交流や外出行事が減少する中入居者の皆様が、不安やストレスを溜め込まない様、お花見、散歩、花植え、外庭作業、誕生会、ミニ敬老会等気分転換や楽しみを持っていただける様になっています。又、ご家族様へ写真や広報誌、毎月の手紙、窓越しの面会等で双方が安心していただける様にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍の中、国道57号線の開通は、熊本地震からの復興に向かう地域に明るいニュースとなっております。法人としても新道路に尽力くださった方々への感謝が広報誌にも記されている。コロナ感染症発生により面会の機会を制限されている家族にとって、不安や心配がつのる中、担当職員を中心に健康面や日常の様子、生活用品の不足など定期的な手紙や電話連絡での詳細な報告は、安心・信頼につながり感謝の言葉が数多く寄せられている。自然豊かな環境とともに広い敷地内は常に手入れが行き届き、外出が難しい現状に散歩や散策など可能な限り外気に触れるよう支援している。管理者は入居者それぞれにとっての馴染みの神社への初詣など、コロナ終息後の外出支援などの計画も語っており、職員のピンチをチャンスに変えるアイデアが生まれ実現されていくことを期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

### 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当法人の理念である「ぬくもりと安心の福祉」を基に5項目を掲げている。この理念は私達が提供するサービスの原点として根付いている。月末の会議時に唱和(サブタイトルまで)を行い、名札の裏に携帯いつでも確認出来る様にしている。気持ちを新たにす為、各箇所に掲げている。新しい職員も増え、気持ちも新たに各箇所新しい物に取り換えている。	法人理念「ぬくもりと安心の福祉」を基にして基本理念5項目を規範として掲げ、日々の生活に直結させるべくケアの原点として捉えている。職員の異動もあるが、個別ケアを行うことや入居者へのケア姿勢は普遍として、職員の意見により理念5項目を名刺の裏に入れ、新たな気持ちで高齢化する入居者のケアに真摯に取り組み、毎月の会議後にはサブタイトルまで唱和を行うことでベクトルを同じくしている。また、「陽なたぼっこ便り」よる家族や地域へのへの啓発が継続されており、地域の中での確固たる基盤が形成されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	本年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の為外部からの訪問は必要最小限に止めている。病院受診以外での外出も行っておらず、面会も制限しており、コロナの終息を願っている。コロナ禍の中十分に対策を取りながら、年末の消防団活動への参加は予定している。	これまでの地域との交流はコロナ禍の中で出来る状況にはないもののボランティアとの交流や初詣等を支援していたが、今の現状では病院受診を地域住民との接する機会としている。地域に出る機会は少ないが、職員の体制によっては風に当たり、外の空気を吸ってもらうよう支援している。また、買物ツアーとしての外出も中止しているが、職員のアイデアによる移動販売車の活用は社会性の継続として生かされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	本年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の為小・中学生の体験学習等受け入れていない。認知症の方々の暮らしの様子を広報誌にて、地域の人々に伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年の12月から2月まで、運営推進会議を実施出来ていたが、3月以降は新型コロナウイルス感染拡大防止する為会議は実施していない。 Withコロナ時代となりあらゆる対策を取りながら、会議開催に尽力していく。	今年度の運営推進会議は、ホームの実情や事故・転倒等の事例があれば議題として文章で周知徹底を図っている。家族の参加は難しいものの、会議案内を出し、玄関で議事録を開示している。	現在は報告による情報の発信源として生かされている。報告から次のステップとして要望や気づき等を収集されることや、地域の課題等を議題として挙げながら意見交換をされる等この会議を有効に活用いただきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	法人を通し介護実践や取り組み、職員の人員不足、定員変更について等事業所の現状を報告している。又、訪問調査を利用し直接伝える様になっている。法人職員が役場へ出向く機会もあり、密接な関係作りは出来ている。新型コロナウイルス感染防止対策を取り、運営推進会議を開催し直接報告出来る様検討したい。	行政との行き来は無いが、電話連絡等により密に連携を図っている。特に、新型コロナウイルス対策等メールや通達等行政から寄せられている。また、介護保険更新を代行し、調査時に立ち合いながら情報を発信している。職員体制等法人を通して報告する等行政と法人との関係が構築している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置しており、委員会、勉強会を3か月に1度実施している。身体拘束の定義や判断基準の認識、事例等の資料を配布し身体だけではなく声かけ等幅広く含まれる事を理解し拘束のないケアを指導している。現在1名の方、ご家族の希望、理解を得て居室のサッシに鍵かけ実施中。又安全確保の観点から夜間の施錠、センサーマットに関して、ご家族のご理解、承諾を頂き使用している	法人での身体拘束委員会に参加するとともに、ケア会議の中で定義や判断基準等の再認識及び意識強化を図っている。入居者のリスクや身体機能等状況に応じたセンサーマットの使用や、“外に出たい・帰りたい”と外に出られたケースもあり、家族への説明・同意を受け居室のサッシを施錠している。	立地的な面や、居室の掃き出し窓からは自由に出入りができる状況であり、今後も入居者個々の外出傾向等を把握し、職員体制(一人になる時間等)による施錠等全員で再度検討されることが期待される。職員の気付きや観察力を生かしたケアに期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を実施し、虐待防止に努めている。職員間でのコミュニケーションを円滑にし心身共に健全な状態で業務に就く事が出来る様に努めている。満床になり新職員も増え、より働き易くする為に業務の内容、時間の見直し、8月から実施している。職員の負担を軽減する事も虐待防止に繋がると考えている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	11月に勉強会を実施し、全職員に周知徹底している。ご家族等からの問い合わせにも速やかに対応できる様、法人等との連携を取っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には契約書及び、重要事項説明書等にて説明し理解、納得された上で契約書の締結をしている。改定等の際には書面にて通知している。疑問点等の問い合わせについては、法人・事業所にて対応しており、十分な理解、納得が得られる様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族等に関して、普段の面会や電話等を用いたり、又は玄関に意見箱を設置しており意見の収集に努めている。入居者については担当制を実施している。収集した意見を運営に反映できる様、ケア会議や広報誌を活用し外部への発信に努めている。	家族には広報紙と職員の手紙により情報を発信し、遠方の家族との相互連絡、又、入居者の希望等随時担当職員から連絡している。入居者には日々の関わりからの聞き取りや、スマートフォンを持参した入居者の直接の要望に家族から相談されたケースもある。家族や入居者の意見等全職員で検討するとともに、家族の要望によるホームの現状発信等サービス向上に反映させている。ホーム内外の苦情相談窓口を明確にし、出された課題は全員で検討し、広報紙を活用し開示する体制であり、透明性のある運営である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケア会議、全体朝礼にて意見や提案を聞く機会を設けている。職員の意見、提案に関しては幹部会議、又は代表者へ直接報告を行っている。各会議や普段の会話の中からも職員の意見を反映できる様に努めている。	毎月のケア会議のなかで、ホームの課題とする問題を話し合うとともに、職員へのアンケートにより意見を吸い上げ検討している。勤務内容や時間の見直し等現在は暫定で行う等何事も全員での合議としている。コロナ感染対策について全体で検討したり、法人への意見や提案事項等随時事務長を通じて代表へ申し出る体制であり、職員が意見や提案を出す多くの機会があり、所長も職員の顔色を見ながら声を掛ける等風通しの良い関係である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得への支援、資格手当、休暇を含めた業務改善など、法人及び代表者も積極的に支援を行っている。新たな取り組みとして、現場職員が働き易くなる様、8月から勤務時間を変更している。今後は職員へのアンケートを実施し、より良い勤務形態への変更を目指し、働き易い環境作りに努めていく。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に勉強会を開催している。新たな取り組みとして資格取得の支援や法人内で実務者研修を開催しており働きながらトレーニングし易い環境を整えている。外部研修に関してはコロナ禍以降の参加は控えている。今後はオンライン研修等を活用し、一人一人のケアの向上に努めていく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会研修や「アソウェル」の活動に参加し同業者との情報共有、ネットワークの構築に努めている。コロナ禍以降はオンラインを活用し交流を図りサービスの向上に努める。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前面接や関係者からの情報収集に努め、安心して入居できる様配慮している。認知力低下により訴えが困難な方に対しては表情や仕草等の細かい変化にも気を配り、信頼関係を築き、出来る限りの不安軽減に努める様になっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前面接や関係者からの情報収集に努め、ご家族の要望や不安等に対して聞き取りの実施、適切に行える様努めている。事業所としての理念や方針等理解していただき、より良いサービスが行える様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、ご家族様のニーズに対応できる幅広い視野でサービス内容を提案し、他の事業所との連携を図りながら対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者一人一人が取り組める事(家事活動、カレンダー作り、小物作り)を全職員で把握し日々のサービスに繋げている。又、入居者と職員が共同で行う事で信頼関係も深まり、互いの事を知る良い機会となっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	各担当より月に一度、日常生活の様子や健康状態を記載した手紙の送付を行っている。急変時は勿論の事、病院受診や嗜好品の購入、外出等極力ご家族へ相談行っている。可能な範囲でご家族に協力を得ながら支援していただけ様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	他事業所の知人の方が来荘された際は、気軽に交流できる様配慮している。又、デイサービスや特養に馴染みのある方へ会いに行かれ、法人内他事業所との関係作りを行い、ふれあいの場を設け、支援しており、関係維持に努めている。2月以降コロナ禍の影響もあり、感染防止の為地域施設の外出やボランティアさんへの依頼も自粛している。	地区住民や兄妹の訪問、隣接施設に入所されている家族に会いに出かけられる方、自宅での年越し、年はじめの帰省、お盆の墓参の他、外出は自粛中であるが自宅周辺の赤牛やイチゴ畑の見学に出向いたり、入居者の希望による墓参等馴染みある関係を家族の協力も得ながら支援している。裁縫をされていたという入居者は布団カバーを縫われる等、出来る力を発揮させている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや行事、家事活動を通じ、ご入居者同士が、より良い関係を構築出来る様考慮している。内容も個人で出来る事や協力し合える事を分けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所へ移られた入居者様へ面会を希望された時は連絡を取り、感染対策をとり、面会をしていただいている。又、契約終了後もご家族の問い合わせ等は関係機関とも連携を図り柔軟に対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日中の過ごし方や食事形態など、本人の希望や年齢、状態を観察し対応行っている。嗜好品や趣味活動、買い物の希望等、担当職員が主となり対応している。情報は全職員で共有している。又本人からの意向の伝達が困難な方に関してはご家族と相談も行いながら、出来る限り本人の思いに沿えるように努めている。	担当制として、本人の希望を聞き取りするとともに選択できるように働きかけ、意思疎通困難や自分の意思を言えられない場合等日々のケアでの職員の気付きを家族へ依頼したり、入居者の声を代言したり、相談する等、本人本位になるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、ご家族や知人、ケアマネージャーから出来るだけ多くの情報収集を行い、出来る限り生活歴に沿ったサービス提供に努めている。又、知り得た情報等は記録に残し保存、サービスに活用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人別にケース記録や個人表を整備し、日々の状態把握等に努めている。職員同士で情報共有が出来る様、申し送りノート等を活用している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族には事前にケア会議への参加の有無を含めた御意見・御要望書を送付している。担当職員とケアマネージャーが意見を交換し、アセスメントを行いながら本人とご家族のニーズを反映した介護計画の原案を作成、月末のケア会議で原案を元に全職員で討議、より現状に即した介護計画を作成している。 本年度は10月までに2家族の参加あり。	家族にまずは担当者会議への出席可とプラン作成に伴う意見や要望、改善して欲しい案件等を記してもらい体制として家族の意向等を反映させ、毎月のケア会議やモニタリングにより継続可否を見極めている。入居者の“らしい”生活を視点にしたプランであり、行事やレク活動、家事活動への参加等理念の一つ“自分らしく生き生きとした暮らし”を反映させる等個別性のあるプランが作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状況や心身状態などを個々のケース記録にまとめ申し送りノート(一般・医療)を活用し情報共有がスムーズに行える様にしている。担当職員はこれらを用いて評価や見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族や医療、地域社会との連携を図り多種多様なサービスを柔軟に提供できる様努力している。新型コロナウイルス感染防止の為、外出・外泊や面会については、対応困難な状況となっている。しかし、緊急時や専門家への受診については感染防止対策を取り、出来る限り対応に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の為ボランティアさんへの依頼や老人会への参加はしていない。行政や多職種とはコロナ感染対策等、連携を取っている。コロナ禍の時代に即した、地域との関りを考えていく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に協力医療機関等の説明を行い、同意を得た上で主治医の変更を実施している。ご家族や本人の希望も尊重し専門医等の受診についても対応している。眼科や皮膚科訪問歯科以外でのかかりつけ歯科等の受診は状況に応じてご家族にも送迎を依頼している。又、緊急時等には職員及び看護師にて対応している。	本人・家族の同意のもと、関連施設の医療機関をかかりつけ医とし定期的な受診支援が行われている。また、専門医の受診については、家族からの相談に応じながら適切な医療が受けられるようにしており、家族の送迎による歯科受診等協力を得ている。熱発など特変時には担当看護師に連絡を行い、必要に応じて医師からの指示を仰ぎ、併せて速やかに家族への報告を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご入居者の体調不良や特変時には担当看護師が報告を受け対応している。又、法人看護師とも協働する事で、適切な受診等スムーズな対応が出来る様医療連携体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には日常生活の状況、入院前の様子等申し送りをし、スムーズな治療が受けられる様努めている。入院中においては、病院の相談員と定期的に電話(コロナ禍の為)にて連絡を取り、心身の状態把握に努めている。月に一度協力医療機関、病院関係者、当事業所の連携会議に参加し意見の交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご家族に事前指定書及び、重度化指針の説明を行い事前指定書に記入していただいている。いつでも確認出来る様、個人ファイルにまとめている。内容については、主治医へも報告し意向の変更もある為、都度聞き取りを行い、意向を確認している。又、勉強会を実施し職員の理解を深め、協力医療機関、法人、事業所全体で支援できる様、体制を作っている。	入居時に重度化に関する指針、事前指定書や併設施設の特養について説明を行い、指定書の記入を受けている。指定書の内容については、職員間で共有を図り、主治医へも報告を行っている。また、家族の思いは変化するものでもあり、相談事には適切に対応し、現状の希望を確認している。看取りに関する勉強会も実施しており、支援の有無に関わらず必要な知識や心構えを習得し、日頃のケアに努める事としている。	面会も制限されている現在、高齢の入居者にとっての1日を案ずる家族であると思われる。今後もホームに出来る日々の支援に努めていかれる事を期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当及び対応等、看護職員からの指導、勉強会を行い、実践力に繋げている。又、入居者の異変や事故発生時に対応できる様、事務所内に連携手順法を掲示している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人と協力し発電機や非常食等を準備、陽なたぼっこでも非常時の水やおむつ類を保管している。又、地元消防団との連携も取れており、年末には夜警活動への参加も予定している。コロナ対策として、法人職員、病院との合同会議からの伝達やコロナ対策の勉強会に参加しケア会議で報告行っている。毎日の消毒やマスク着用等、最大限の感染防止対策に努めている。	今年度は10月に隣接施設と夜間を想定した訓練を行い、年度内に2回目を予定している。発電機や非常食は法人で備えており、ホームでは水やおむつ類を確保している。地域の協力体制の一つとして、年末の夜警活動に男性職員が参加している。コロナ感染症への対策として、法人職員、系列医療機関との合同会議や、勉強会に参加し、ケア会議で共有が図られている。	防火管理責任者資格取得に職員の派遣が検討されている。更なる防災への取組強化に期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念に基づき入居者個人の誇りを尊重し、尊厳を守る事を職員同士で心掛けている。声掛けの時には目線を合わせ、丁寧な言葉使いに配慮し、不快感を与えたり、個人のプライバシーや誇り、自尊心を傷付けない様に努めている。又、共通認識ができる様に勉強会を実施している。	一人ひとりの誇りを損なわない声かけや対応を心掛け、心地よい暮らしの支援を職員間で共有し業務にあたっている。管理者は普段から、気になる言葉使いやアットホームな雰囲気大切にしながらも、馴れ合いの対応にならない事などを指導している。呼称は基本的に苗字としているが、同姓もあり状況に応じて下の名前でも対応している。身だしなみやおしゃれについても、家族の協力や訪問理容などを取り入れながら支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	担当制を導入することによって、本人の希望や関心事を把握し出来る限り、自分で選べる場面を作れる様働きかけている。誕生日には本人が食べたいメニューを提供している。聞き取り困難な方へはご家族へ尋ねる等本人の意向を汲み取れる様にしている。仏前支援や嗜好品の購入も実施している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や食事等、大まかな日課はあるが本人の嫌がる事は無理せず、本人のペースを大切に出来る様な支援を行っている。その時々で声かけを行い、入浴やレク活動、行事等への参加を勧めている。居室で読書や書道を好まれる方はそちらを優先していただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に髭剃りや整髪を行っている。月に一度の訪問理容はコロナ感染防止の為、一時期中止となっていた。その間は職員にて対応行っていた。徐々にではあるが、訪問理容を再開している。季節の変わり目には衣替えを行い、ご家族にも協力を得ながら季節に合った衣類を着用できるように努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	体操の時間や食事の前にメニューを紹介している。本人の誕生日には事前に聞き取りを行い昼食時に希望食として提供し喜ばれている。食事の準備はしていないが、台拭きや下膳、コップ洗い等され関りを持たれている。施設内の畑では、高菜摘みを入居者、職員と一緒にいき、漬け込みをし、提供している。正月には専用の茶碗を使用し喜ばれている。季節のトウモロコシは皮むきからいき、おやつとして提供し楽しまれていた。	ご飯のみホームで炊き、他の主・副菜などは、法人特養施設で調理されたものを提供している。普段のメニューに入居者の希望が反映される機会は殆ど持たれていないが、誕生日食やおやつ、カレーのトッピング(から揚げ・エビフライ・コロッケ)を選択メニューに取り入れている。食事形態はキザミやトロミなど嚥下状態に応じて提供し、茶わん・湯のみ・箸は個々の物が使用されている。また、正月には専用の器を使用し、年の初めを祝って会食している。	入居者にとって食事は楽しみの一つであり、引き続きやおやつ作りや、希望食・節目の日に普段と違う茶の提供など出来得る支援に期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主治医や管理栄養士の下、個人に応じた食事や水分の提供を行っている。禁止食品ではないが、どうしても食べれない場合、代替え食にて提供行っている。咀嚼や嚥下状態、歯の状態に合わせ、本人の好みに応じ、お粥や刻み食を提供している。体重の増減ある際には、摂取量の見直しや、必要に応じて補助食品の提供も行っている。夜間、水筒を使用されている方には好みに応じ、麦茶・緑茶で提供行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月に一度、歯科衛生士と口腔ケアについて計画を立案し様々なアドバイスをいただき日々のケアに努めている。一人一人の状況に合わせて、歯ブラシや歯間ブラシ、舌ブラシ、スポンジ等個別に応じたの道具を使用している。定期的な見直しや交換を実施。自分でできる方も磨き残しがないか支援している。毎食後に確実に口腔ケアを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別の排泄能力に応じた対応を行っている。排泄の意思表示が難しい方には、排泄チェック表を活用し排泄パターンを掴み、仕草や表情、行動等の変化に気を配り対応を行っている。又、個々に合わせ、パット類の見直しも随時行っている。	昼夜、基本的にトイレでの排泄を支援しておりハビリパンツや布パンツのみ、パットの併用など個々に応じて対応している。自立の方や見守りの場合も、排泄の確認はプライバシーに十分配慮して行っている。夜間のみ使用される方のポータブルトイレは、使い勝手や清潔な管理に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適切な食事と水分を提供する他、体操やレクリエーションを日課に入れ、参加していただく事で便秘対策の一環としている。又、チェック表を用いて、医師や看護師の指示の下各種下剤を使用し対応行っており、適宜見直しを行っている。又、便座着座後の腹部マッサージも支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に毎日入浴ができる体制を整えており、個々の状況に合わせて、一般浴と機械浴を設置している。季節に応じて、脱衣所や浴室等の温度管理に配慮し安全に努めている。毎年行っていたバラ浴はコロナ禍で外出できず、実施できなかったが、会話や入浴剤を用いる等工夫し楽しく入浴していただける様支援している。	毎日入浴の準備を行い、週2～3回ゆっくりした入浴を支援している。1階に機械浴、2階に一般浴が設けられており、身体状況に応じて利用されている。入浴拒否がある場合には無理強いせず、声掛けの工夫や職員を交代したり、別日に変更するなど本人の気持ちを尊重している。菖蒲湯や柚子湯は継続して支援しており、自宅に庭に実る柚子がある入居者の「採りに行って来んな！」の一言から、職員が採取に出かけ、冬至の湯を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の年齢や表情等に気を配り、意思表示の難しい方にも適宜休息を促す他、日中、体操やレクリエーション等の活動を取り入れる事で昼夜逆転を防ぎ、夜間の睡眠に繋げている。又、クッションや座布団を用いて、楽な姿勢での休息や睡眠を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋は個人ファイルへ閉じ、薬の内容や経過が直ぐに分かる様にしている。又、変更あった際には医療申し送りノートを活用し全職員が都度、内容の把握ができる様にしている。内服の準備から服薬までの間、誤薬を事前に防げる様、関わった職員が都度2名にて確認し確実に服薬できる様対応している。日々、体調や精神状態等、密に観察行い、異常見られた際は、都度看護師へ報告し対応行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や性格に合った家事活動を模索しながら支援している。玄関掃除、台風後の後片付け、洗濯物干し、ハエ叩き作りなど行っている。役割や楽しみ、活力にも繋がっている。自分のペースで生活できる様支援している。嗜好品の購入には担当制を用いており柔軟に対応している。病院受診時、売店で購入される方もおられる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染拡大防止の為、多人数で外出は自粛している。コロナ禍での生活を工夫し、外気浴や敷地内散歩、畑の野菜を見に行く、落ち葉を集める等支援している。どうしても墓参りがしたい、家や田んぼを見に行きたいとの希望がある入居者に対しては、コロナ対策をし個別にドライブを行っている。紅葉ドライブ、神社参拝等の希望が出ており、入居者の皆様にストレスが溜まらない様、柔軟に対応したい。	これまでは季節に応じたドライブや自宅への帰省・外泊などが行われていたが、コロナ感染症発生後は庭先や中庭での散歩、外気浴を中心に支援している。中には自宅の様子(牛・イチゴ)が気になる方の強い要望から、短時間の自宅帰省が実現している。廊下で繋がっている特養施設との行き来は制限されておらず、兄弟・姉妹との面会は継続して支援しており、それぞれが喜ばれている。中庭は手入れが行き届き、この秋も居室から紅葉を間近に楽しみ、更にドライブで地域の紅葉見学が検討されている。	法人職員のアイデアにより実現した系列医療機関売店からの移動販売車による買い物支援は、コロナ禍の中での外出支援の一つとして、また、身体面から買い物外出が困難な入居者への個別支援として継続されることが期待される。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の承諾を得て、個人でできる方は自己管理としている。病院受診時のお菓子類の購入や必要な物の担当職員へ購入依頼をされている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望時に職員の介助にてかけており、先方を確認し、本人と代わり間違い電話防止に努めている。ご家族の希望で制限のある方には注意して対応行っている。携帯電話、スマホを持たれている入居者もおられる。担当職員にハガキの購入を依頼され、出されている入居者もおられる。又、毎年入居者、担当職員と一緒に撮った年賀状はご家族の皆様にご喜ばれている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は毎日、掃除を行い清潔に心掛けている。コロナ感染拡大防止の為、毎日定期的に消毒をしている。リビングは明るく開放感があり、温度や湿度も適宜調整し過ごし易さに配慮している。壁には手作りのカレンダーやご家族の作品等も飾り、又ソファなども配置し和やかで寛げる様工夫をしている。廊下には行事や誕生会等の写真を飾り入居者様が談笑される姿もある。トイレや浴室等分かり易く表示している。浴室はより安全を保つ為、大判のマットを使用している。	各ユニットは入居者と一緒に作成したカレンダーや、直近の行事写真などを掲示することで季節を感じる空間となっている。椅子やテーブルの配置は入居者の状況に応じて検討している。今年度は1階のソファが新たな物と交換されており、入居者の使い心地などから2階への購入を検討することとしている。共用空間は日頃から、掃除や温湿度管理に努めているが、コロナ感染症発生後は、特に消毒を含め衛生管理を徹底している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング内にはソファ、廊下には椅子や長椅子があり思い思いの場所で過ごされている。コロナ禍で居室への行き来は控えている。談話室も準備しており、希望時は利用できる様になっている。間隔を取る為に、本年度は会議室も利用している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご家族と相談しながら、今まで使い慣れたタンスや仏壇等愛着のある物や精神的に落ち着く物を持ち込まれ、今までの生活に近い環境作りをし居心地よく過ごせる様な工夫をしている。又、スナップ写真や誕生色紙、家族からの手紙や年賀状等、本人と話し合い飾っている。	居室は自分の部屋として、安心して過ごしてもらえるよう、馴染みや愛着のある品の持ち込みを家族と相談しながら進めている。また、入居後も必要な品があればその都度家族へ伝えている。入居年数の長い方の部屋は特に、慣れ親しんだ環境となっており、持ち込まれた冷蔵庫にも飲料水などに限らず、「足がほめく」と、アイスノン(冷却剤)を入れておられるようである。また、「タンスを増やして欲しい!」と、自身の携帯で家族へ連絡し、チェストが新たに持ち込まれ、お気に入りの衣類が下げられた部屋も確認された。感染症への対応として、日々掃除や掃除の徹底と、全居室に加湿器が設置されている。	ユニットの垣根を越えて、全職員で入居者を支える体制となっている。コロナ感染症の影響により、家族の面会が制限されている現状であり、今後も家族に代わって職員の気づきで環境整備に努めていかれる事を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口には、好みの暖簾と表札を作成している。導線上の整理を行い、本人に適した歩行補助具を使用し安全に自立した生活ができる様にする為、環境作りをしている。居室内はタンスやテレビの位置や家具の配置等、本人の動き易い様に配慮している。		